

平成 30 年度第 1 回秩父市総合教育会議議事録

期 日	平成 30 年 6 月 4 日（月曜日）
時間・場所	15 時～16 時・本庁舎 3 階庁議室
出席者	<p>久喜市長、倉澤教育長、新井教育委員、増田教育委員、浅見教育委員 高野教育委員</p> <p>市長室長、市長室次長兼地域政策課長、地域政策課主幹 2 名、主任 教育委員会事務局長、教育委員会事務局次長 2 名、教育総務課長、 教育研究所所長</p> <p>傍聴者なし</p>
会議内容	<p>○市長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日はこれまで大変ご尽力いただいた新谷教育長、久保委員に代わり、倉澤教育長と高野委員のお二人を新たにお迎えしている。 ・市においては、新教育委員会制度発足以来、本日を含め通算 13 回の総合教育会議を開催してきている。教育長、教育委員の皆さんと市長との率直な意見交換の場、施策の実現に向けた協議の場等として、有効に機能していると感じている。 ・新たな体制のもと、これまでの議論の蓄積も踏まえつつ、心新たに進めていきたい。 ・本日は、「秩父市独自の教育に関する取組について」を議題として用意している。積極的なご意見をいただきたい。 <p>○教育長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合教育会議について、市長と教育委員との重要な意見交換の場であると認識している。 ・市長のマニフェストでもある「日本一しあわせなまち」の実現に向けて、市の未来を担う子どもたちに、どのように学力をつけていくか議論をしていきたい。 <p>○議事</p> <p>(1) 前回までの議題に関する対応状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回（昨年度第 4 回）会議で取り上げた「SNS について」、その後の対応状況の報告をお願いします。（市長） ・前回の会議では、PTA 関係者にも加わってもらい活発な議論ができ、それぞれの立場から積極的に取り組んでいくという結論になった。そのうち、生涯学習課（前回の会議に課長が参加）が所管する「青少年育成秩父市民会議」の総会が本日開催予定となっており、本日は県警本部の職員を招き、インターネットセキュリティーに関する講演をい

ただく予定である。このように、様々な研修等を通して SNS に関して注意喚起を行っていくとともに、親子で関心を持ってもらうよう、働きかけていきたい。(教委事務局)

→特に質問等なし。

(2) 秩父市独自の教育に関する取組について

- ・資料 1 及び資料 2 について教育委員会事務局次長から説明。

[アフタースクール・スタディ～夜勉～]

- ・原谷公民館：128 名（小 80 / 中 48）の応募。
- ・影森公民館：44 名（小 24 / 中 20）の応募。
- ・支援員（先生）：19 名（うち大学生 2、高校生 4）の応募（6/1 現在）
- ・原谷公民館については定員超過。影森を紹介している状況。

[学力・学習状況調査結果の推移]

- ・この 3 年間、少しずつ向上（改善）している。
- ・小学算数、中学国語の問題のうち、最も正答率が低かった問題を紹介。判断した理由を記述する問題、比喩に着目する問題など、ただ単に解答するだけでなく考え方を重視した問題。
- ・この調査はいつ実施したものか。(久喜市長)
→昨年の 4 月に実施した。(教育委員会事務局)
- ・今年の調査結果はいつ出るのか。(久喜市長)
→小・中とも 4/17 に実施した。結果は 7 月に出る予定。(教育委員会事務局)
- ・大変素晴らしい取組だ。他の市町村に負けない内容だと思うし、結果としても学力向上につながっている。秩父のアカデミックなポテンシャルの高さを再認識した。(増田教育委員)
- ・今年も応募が多いのは良いことだが、一方、何年も続くと、問題点が出てくるかもしれない。勉強しに来るのではなく遊び感覚で来る子が出てきたり、指導側の課題としても、指導能力がどうなのか、といったところが出てくるかもしれない。(増田教育委員)
→地域人材の活用が本事業の一つの目的。県からも「地域人材活用事業」ということで補助を受けている。支援員は、高校生は秩父高校から 4 人、先生からも推薦というか認められている人材。大学生はなかなか難しかったが、教育実習に来た方に声掛けするなどして、何とか 2 人を確保した。その他、教員 0B の方など。指導能力は心配ないと思っている。

今回、新たに影森公民館でも展開するが、もっと多くの方に携わってもらいたい。先生のマンパワーの状況について、それぞれが 20 回のうち、どの程度参加できるかについては未定である。(教育委員会事務局)

- ・回を重ねていくにつれて、慢性化というか不真面目な子が増えてきたりはしないのか。(増田教育委員)

→ 昨年の現場を見たが、色々な子がいた。遊びに来てるのかな? という生徒も散見された。注意はするが、学校ほどには厳しくしていなかった。一方、そういった子にとっての居場所づくりになっているのかな、という感もあった。(教育委員会事務局)
- ・子育て世代のお母さん方と意見交換をしたが、最終的には教育論になった。テストの結果には一喜一憂しておらず、どちらかというところ、授業の理解を大事に考えている。学校の先生より塾の先生の方が生徒の興味を引くような授業をしている、という意見もあった。人の話を聴けるか、理解しているかが重要。家庭内の教育力が大きく影響している。絵本の読み聞かせなども有効。

人はお互いに迷惑を掛け合うものであるということを前提に、子どもには失敗を重ねる中で学んでほしい、と思っている。教育は学力だけではなく、生きる力を養うものだという、教育論に関する意見があった。(浅見教育委員)

→ いい話だと思う。(久喜市長)

→ 家庭学習その他、家庭との連携をとるようにしている。授業改善等にも努めている。(教育委員会事務局)

→ 「学力、学力」というよりも、一人一人の個性に合った教育を、というのが理想。ただし今の段階としては、全体の底上げを図らないといけないと思っており、学力向上にも力を入れている。(倉澤教育長)
- ・2つ気になった点がある。

1点目、塾は面白くないと生徒が来なくなる。なので、教え方に工夫していると思う。教えるということの環境整備が必要だ。親が子どもに対してきちんと教育することが大切。私も生まれ変わったら浅見教育委員のような家庭で育ちたいくらいだ。絵本の読み聞かせ等、もっと浸透させたい。

2点目、学力調査については、ひとつの目安だと思う。問題は、子どもがきちんと考える力。考える力は基礎学力にもつながる。ポイントは「考える力」で、その目安は「学力調査」。行政としては、その目安となる部分はしっかり取り組んでいく。(久喜市長)
- ・夜勉について2点質問したい。1点目、指導主事のかかわり方はどのようなになっているか。2点目、来年度以降の予定は。(新井教育委員)

→ 昨年は1年目ということで、指導主事の負担が重かった。昨年は途中からコーディネーターを1人臨時で雇用したが、今年度はすでに2人を雇用し、現在は名簿作り等をお願いしている。コーディネー

ター主体で取り組む様にしていく。来年度以降は、地域人材活用をさらにすすめ、各公民館などでも出来れば良いと考えているが、現実的にはコミュニティスクールの制度を活用するなどして拡充を図りたい。(教育委員会事務局)

→指導主事が本来の業務に携われるような方向となっており、良かった。指導主事の関わり度合いをなるべく小さくしながら継続してもらいたい。(新井教育委員)

・夜勉について、昨年の成果と課題はどのようなものか。今年度の結果にも現れてくるとは思うが。(高野教育委員)

→成果については、夜勉の対象者はごく少数であることもあり、学力調査の結果とイコールにはならないと思っている。他の子が勉強している様子を見ることで、学習意欲の向上につながっている。また、貧困対策で始めたわけではないが、家庭の経済的な事情により塾に行けない子が参加しているといった例があり、良かった面の一つである。2つの会場がスムーズにスタートできるよう、最善を尽くしたい。(教育委員会事務局)

・子どもたちからアンケートを取ったりしているか。(久喜市長)

→実施した。勉強したいのにうるさかった、という声があり、そういった中には、途中から来なくなってしまう子もいた。(教育委員会事務局)

・吉田の子はいるのか。抽選で漏れるような例はあるのか。(高野教育委員)

→吉田から原谷に来る子がいた。影森会場は、秩父二中からは片手くらい、荒川も少ないなど、思ったよりも影森方面が少ない。伝承館の方が良かったかな、とも思っている。(教育委員会事務局)

→伝承館や市役所、例えばこの部屋(本庁舎3階庁議室)でも良いのでは。(久喜市長)

・教える側の大学生が少ないようだが、協定を結んでいる立正大学などに声掛けをしてみてもどうか。(久喜市長)

→包括連携協定を結んでいる各大学には依頼した。(教育委員会事務局)

・送迎の心配はどのように対処しているか。(高野教育委員)

→保護者に送迎してもらうことが条件。友達と乗り合わせで来る例もある。そういった事情もあり、会場を増やして、より地元にあると良いとは感じている。(教育委員会事務局)

・考える力や読解力の養成という意味では、学校図書支援員の配置が、長い目で見て成果が出てきたと思っている。今回資料として出した問題は読解力が必要。夜勉についても、勉強のきっかけづくりとして、長いスパンで考えたい。また、貧困対策の一助ともなると思う。

セーフコミュニティで白石氏の講演を聞いたが、交通事故についても

自殺件数にしても、上がり下がりはありながらも長期的には減少傾向にある。学力についても、単年で一喜一憂しなくても、長期的には向上していく、という形になると良いと思っている。ただし、指標としては必要だと思う。(倉澤教育長)

- 先生の教え方の話が出たが、学校の先生が忙しいのは承知している。先生が幸せでないと良くない。リフレッシュしたり、余裕を持たせたり、学校以外の世界も知ってもらえるように、先生の人間性を考えてあげたい。先生の人間的な魅力を大事にしたい。(浅見教育委員)
- 浅見委員に同感だ。理想的な保護者ばかりだったら良いが、といった感もある。教員の働き方改革、負担軽減が叫ばれている。秩父市でも校務支援システムを導入したりなどしているが、もっと負担軽減をしてあげたいと思っている。(高野教育委員)
- 夜勉でふざけている子がいる点について、居場所として機能しているということと、ストイックに取り組みたい子が来なくなるという温度差の問題があるということがわかり、色々な課題がありますよね、という思いだ。(増田教育委員)
→小集団学習を取り入れている。自主学習を基本に、聞きたいときにすぐ聞ける環境づくりに取り組んでいる。夜勉先生は何人いても十分ということはないので、引き続き充実させていく。(教育委員会事務局)
- 出来る子を伸ばすという観点から、グループ分けするという考え方もある。伸ばしたいという子を伸ばせると良いとも思う。(倉澤教育長)
- 教職免許を持っている職員の活用も考えたい。(久喜市長)
- 先生の教科はどのようになっているか。(高野委員)
→数学の先生が少ない。逆に、質問として聞かれるのが多いのは数学である。(教育委員会事務局)
- 現況、地域包括ケアの流れで高齢者には手厚い状況にあるが、こどもの貧困対策も重要だと思っている。夜勉と組み合わせるなど、秩父独自の取組みを研究したい。(久喜市長)
- こども食堂が全国で様々な形で展開されている。子どもの貧困について、市長の懸念も分かるし、日本の国全体としても深刻な課題だと思う。(増田教育委員)
→各学校では実態をつかんでいるが、全体としてはつかめていない状況である。(久喜市長)
- 夜勉に遊び半分で来ているということは、非行に走らないという意味では良い面もあると思う。(増田教育委員)
→私もそう思う。(久喜市長)
→居場所がない子がいる、というのは感触として持っている。一方、

全体のキャパが厳しくなっている面もある。(倉澤教育長)

・いずれ、研究の成果をもとに提案したい。(久喜市長)

→実現したら、それこそ全体の底上げになると思う。(高野教育長)

○その他

・2020年から、プログラミング教育やアクティブ・ラーニングの本格導入が予定されていると聞いている。市長に、指導主事の訪問指導や研修強化等をお願いしたい。また、学力向上について、指導主事の成果によるものが大きいと感じている。引き続き、学校への指導強化をお願いしたい。(新井教育委員)

以上